

施策評価調書(26年度実績)

施策コード | I-5-(4)

政策体系	施策名	すべての主体が参加する美しく快適な県づくり	所管部局名	生活環境部	長期総合計画頁	51
	政策名	恵まれた環境の未来への継承～ごみゼロおおいた作戦の推進～	関係部局名	生活環境部、農林水産部、土木建築部		

【Ⅰ. 主な取り組み】

取組No.	①	②
取組項目	地域における環境保全活動の促進	環境教育・学習の推進

【Ⅱ. 目標指標】

指 標	関連する取組No.	基準値		26年度			27年度	目標達成度(%)												
		年度	基準値	目標値	実績	達成度	目標値	25	50	75	100	125								
i	ごみゼロ行動参加者数(人/年)	①	H16 117,419	367,500	354,556	96.5%	400,000													
ii	夏の夜の大作戦(キャンドルナイト)への参加施設数(施設)	①	H16 475	2,765	2,765	100.0%	2,800													
iii	レジ袋削減枚数(万枚/年)	①	H21 7,855	9,660	8,312	86.0%	9,780													
iv	環境教育アドバイザー派遣団体数(団体/年)	②	H16 36	94	118	125.5%	100													

【Ⅲ. 指標による評価】

評価	理 由 等		平均評価
i	概ね達成	目標にはやや届かなかったが、参加者数は過去最高となっており、県民総参加の活動として着実に広がりを見せている。	達成
ii	達成	取り組みを行う施設(事業所)は年々増加しており、環境意識の向上を図ることができている。	
iii	達成不十分	マイバッグ持参率は取組開始時より約85%の水準を維持しているが、当初想定した持参率の更なる上積みがなく横ばい状態。同様の取組を行う他県でも同じ傾向が見られる。引き続き事業者、消費者等、市町村・県による3者の協働により取組を継続する必要がある。	
iv	達成	制度の周知・活用を図るとともに、部局間連携による講座を開催したこと等により、派遣団体数は増加し、環境保全意識の高揚を図ることができた。	

【IV. 指標以外の観点からの評価】

取組 No.	指標以外の観点からの評価
①	・身近な環境保全活動に取り組むごみゼロ隊が平成25年度から12団体増え、平成26年度末で1,982団体登録し、地域や事業所単位で活動している。
②	・幼児向け環境劇は、公演先の幼稚園等からの要望も多く、環境保全意識の醸成に大変効果的であるとの評価を受けている。 ・幼児向け環境ワークショップ研修は、環境の知識が深めるため、各幼稚園等において計2回、それぞれ異なるメニューを実施している。

【V. 施策を構成する主要事業】

取組 No.	事業名(26年度事業)	事業コスト(千円)	事務事業評価		主要な施策の成果掲載頁
			総合評価	27年度の方向性	
①	ごみゼロおおいた作戦推進事業	35,422	A	継続・見直し	71
	クリーンロード支援事業	17,859	A	継続・見直し	189
	ふる里の水辺づくりサポート事業	10,320	A	終了	175

【VI. 施策に対する意見・提言】

○ごみゼロおおいた作戦県民会議(H26.5) ・団体の高齢化が進んでおり、後継者の人材確保が課題である。若い人の参加を増やしていきたい。	○ごみゼロおおいた作戦県民会議(H26.10) ・ボランティアで活動しているため、県からの補助金などがあれば、これをきっかけとして、活動の幅をひろげることができ、メンバーのモチベーションアップにも繋がる。
---	---

【VII. 総合評価と今後の施策展開について】

総合評価	施策展開の具体的内容
A	<ul style="list-style-type: none"> ・ごみゼロおおいた作戦の核となるごみゼロおおいた推進隊の活性化やごみゼロ探検団などの地域における自発的な環境保全活動を支援し、ごみゼロ一斉大行動などの県民総参加の環境保全活動を推進する。また、ホームページやソーシャル・ネットワーキング・サービス等を活用した情報発信を行う。 ・レジ袋の削減については、現状の取組を行いつつ、一層の削減を図るため、持参率が低い消費者を中心に啓発を行う。 ・自然体験などの環境ワークショップや環境教育アドバイザーの派遣などにより、豊かな環境を守り育てる人づくりを推進する。